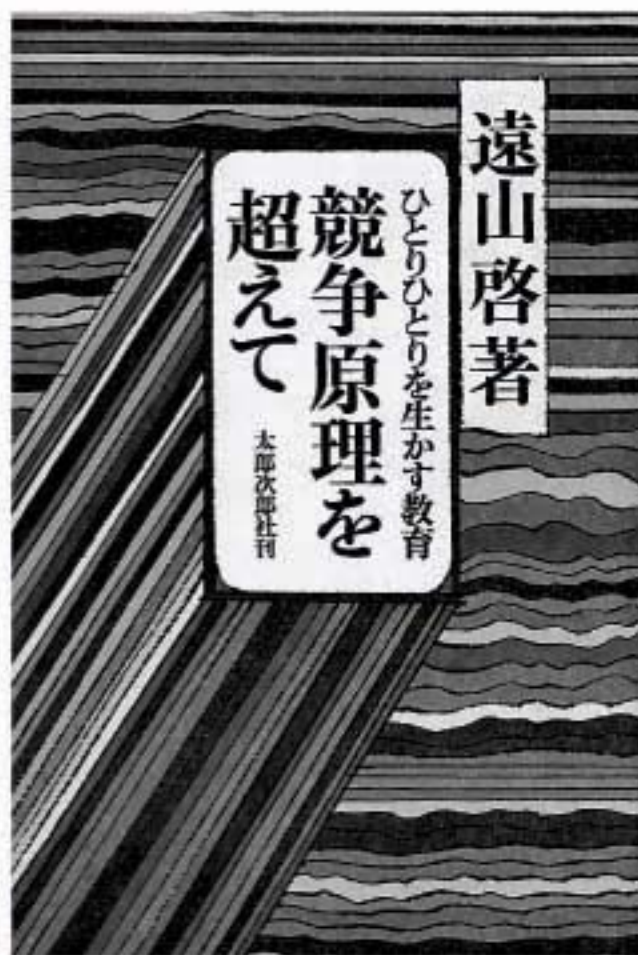


図書館だより

'03.04

「教育・教育学」に目覚めたころ

大矢 一人 (文化総合学科)



競争原理を超えて
遠山啓著 太郎次郎社 1976 本館 370.4 || To64
※「遠山啓著作集」(新装版)
太郎次郎社 1985 - 1987 花川館 370.4 || To64
も所蔵あり

小学校の五年生から、東京都日野市にある日野社会教育センター主催の子ども会に入った。中学校の時にはジュニア・クラブ、高校に入学してもシニア・クラブとその活動は続いた。これらのクラブでは、キャンプなどの野外活動のほかに、読書会らしきものをやっていた。ジュニア・クラブのときに読んだのが遠山啓の『かけがえのない、この自分』(1974年)であった。これが私の遠山啓との出会いである。遠山は数学者であったが、孫に「算数がわからない、おじいちゃん教えて」とせがまれた。算数の教科書を見て「この教科書では、わかるはずがない」と考えて、数学教育・教育に関心をもった人物である。

高校になって、『競争原理を超えて』(1976年)を読んだ。「『落ちこぼれ』ではない、『落ちこぼし』である」(10頁)、「明治以来、日本の教育を支配したのは、国家主義と序列主義である」(33頁)、「学校には自動車学校型(合格か不合格の二種しか評価がなく、巧拙の程度

は問わないタイプ)と劇場型(いかなる評価もなされないし、卒業証書もない、楽しむタイプ)の二種に分化するだろう」(128~9頁)などなど、ほとんど本に線をひかない私が印をつけている。

今でも印象に残っているひとつは、「わかるとできるの関連性」(139~40頁)である。遠山は「最近では

目次

「教育・教育学」に目覚めたころ……………1

大矢 一人

図書館オリエンテーションのご案内……………8

新入生にお薦めのこの1冊……………4

(といっても1970年代のこと…大矢注)、「できる子」と「わかっている子」とは大いにちがうということを感じています」と論をはじめ。できる子とは先生がこうやればできるといったことを素直に受け入れて、そのとおりに間違いなくやる子である。しかし、「なぜ、そうやるのか」という根本的なことをきくとさっぱりわからない、こういう例が多いのだ、というわけである。

遠山は「数学という教科にかぎっていうならば」として、「分数の分母と分子に同じ数をかけても、なぜ大きさは変わらないのか」ということがよくわかっているほうが、計算が早くできることよりもはるかに大事だ」という。学校教育のなかではさまざまなことを教わるが、「できる」ことなどすぐ忘れてしまう。そうではなくて、ごく少数の大事な原理・原則をしっかり身につけることが大事であるし、一度「わかった」ことのほうが忘れないというのである。そのうえで、今の学校でつくられている優劣の序列は「あやしい」し、ちょっと条件を変えればすぐに逆転してしまうとする。

遠山が死去したあと、講演や大人向けの数学の勉強会などの話をまとめた『遠山啓のコペルニクスからニュートンまで』(1985年)では、これをさらに敷衍している。この部分はプリントにして「教育方法論」の授業で使っているのだが、「わかる」と「できる」は相互に関連していると遠山は言う。まず「わかった」うえで、「できる」ように勉強すると、より「わかって」くる。さらに「わかって」くるようになると、ますます「できる」ようになる、というのである。学生には、本当の「理解」に達するためには、「練習」も必要

であるから、「理解」と「練習」は相互に関連しあっているのだ、と説明している。

同著の中心的主張は、教育を「術・学・観」に分けて捉えようとした点である。「術」とは肉体のほうに広がっている、教科でいえば主として体育・美術・工作・音楽などの受け持つ分野・領域であり、また算数・国語と行った知的な教科でも基礎をなすものである。模倣を中心とするため「教え込み」「注入主義」になりやすいが、それゆえ知性の光をあてる必要があるという。

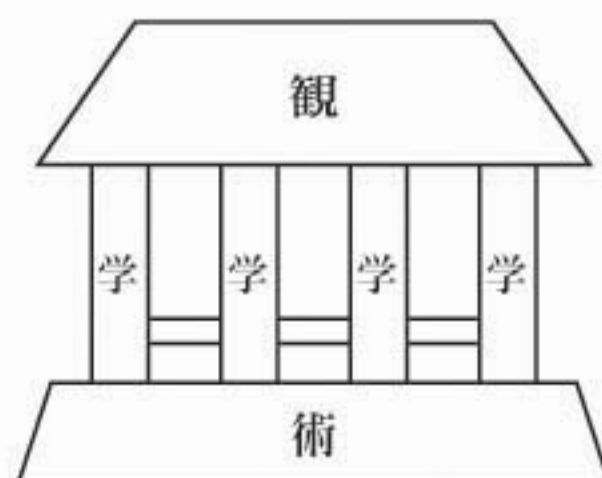
「学」とは学問の学であり、科学の学であり、いわゆる知的な内容の領域である。人間は何か困難にぶちあたると、その困難を分割して(分析)、一つ一つ根気よく撃破していった、最後にそれらをつなぎあわせて(総合)、最終的な解決に到着するという方法を用いる。それだからこそ、学問・科学は分化しているし、学校においても教科が存在する。しかしそれらを総合するための学問も生まれつつあるし、学校においても「総合学習」が必要となる。雑多な知識は一般的な法則の系に取り込まれるから、学校で教えられるべき教育内容は、これでもかこれでもかと思つめこむのではなく、少数の一般的な法則を選んで削減し、ゆっくり時間をかけて教えるべきだというのである。

「観」とは、全体をみわたす広い統一的な展望のようなものである。分析的な論理によって組み立てられた「学」とは反対に、そこでは総合の論理が優位を占める。これまでの教育はまったくといっていいほどこの「観」が次落していた。少年期を過ぎて青年期になると、「なぜ学校で勉強しなければならないのだろうか」「この世界はどうなっているのだろうか」という「なぜ」が心のな

かにめざめてくる。この欲求に学校は応えていない。もちろん「観」は他人から教え込まれるべきものではなく、自己形成を不可欠の条件としている。しかし学校が与えているのは、教科書や受験参考書、そして装いを新たにした、しかし通底では修身教育とつながっている道徳教育でしかないのである。

遠山は「術・学・観」をこのように押さえた上で、次のような図を示している。土台が「術」、土台の上に分立している柱が「学」、そしてそれらすべての上にのっかって、それらを統一している屋根が「観」である。上述の「総合学習」をあてはめるとしたら、分立した柱を横につなぐ梁に相当するという。また遠山は発達段階との関係では、「幼年期には術、少年期には学、青年期には観に力点をおくべきだ」とする。「術」にはかなり強い外からの指導が必要であり、自由はそのぶん制限されざるをえない。「学」は人類の文化遺産の貯蔵庫ともいうべきものであるから、教師による選択・整理を欠くわけにはいかず、その点では自由は制限されるが、一方で生徒にその貯蔵庫に入り込んでおのれの好む知識を選び出す自由があるし、それを認めなくていけない。「観」は、すでに獲得した「術」や「学」にもとづき、それらを駆使しながら大きな展望を自分の責任においてかたちづくっていくものであり、そこには完全な自由がなければならない。教師は背後からそれを援助するだけにとどまるべきであるとするのである。

同著の最後では、「術・学・観とすすむにつれて、(教育は…大矢注) 積極主義から消極主義への色合いを濃くしていった、最終的には、国民の



ひとりひとりが自分で苦勞して創り出した世界観・人生観・社会観などの観をもつようになったら、人間のなかにある序列はなくなり、その序列のなかでおたがいを蹴落とすための競争原理は消滅するだろう。競争にかわって相互啓発が社会をすすめていく原動力になることが期待できる」(265頁)と述べている。

私は、このような教育の大きな捉え方に胸をうたれた。「術・学・観」が単に、領域だけの違いではなく、発達段階や教師の指導性・学習者の自主性とも関わってくることに驚いた。私の「教師になりたい」という漠然とした気持ちは、この書物によって「教育を、教育学を勉強したい」という希望にかわったのだ。そこで私は教員養成系ではなく、教育学を学ぶ大学を志望するようになる。



新入生にお薦めのこの一冊

新入生のみなさんご入学おめでとうございます！晴れて大学生になった現在、あれこれとやりたいことがたくさんあるかと思えます。そんな中で図書館では、これから皆さんがお世話になる各学科の先生方に、「お薦めの一冊」を挙げていただきました。新生活のスタートにお役に立てれば、幸いです。新入生に限らず、在学生の皆さんも参考にしてみてくださいはいかがでしょうか。

文学部

<英語文化学科>

・新井良夫 山鳥 重著『「わかる」とはどういうことか』(ちくま新書)

高校までの勉強は「与えられた課題」を消化することで忙しい。でも大学では自分で課題を見つけて、自分の力で理解を深めることが要求される。そのためには「あ、そうか」と「わかる」ことがスタートだ。この本をよむと、「なーんだ、そうなんだ」と気づくはず。

大学生なんだからオシャレも、というあなた。「声」や「感情」のオシャレも大切に！それにはこの本を。鴻上 尚史著「あなたの魅力を演出するちよつとしたヒント」(講談社)



「わかる」とはどういうことか
(ちくま新書) 山鳥重著 筑摩書房 2002
花川紙 141.5 ¥119



オリエンタリズム (テオリア叢書)
エドワード・サイド著；今沢紀子訳 平凡社 1986
本館 220 || Sa17 両館に所蔵あり

想像の共同体 (社会科学の冒険7)
ベネディクト・アンダーソン著；白石隆；白石さや訳
リポート 1992 本館 311 || A46

監獄の誕生
ミシェル・フーコー著；田村 訳 新潮社 1977
本館 326 || F42

*この他、監田清一氏の著作も多数所蔵しています。

・木村信一

権威的なものを三つと、地味めのを二つ、選外に一つ。英語で読めるものは、原書(または英訳本)を併記しました。

*エドワード・W・サイド『オリエンタリズム』(平凡社)

Edward W. Said, *Orientalism* (Vintage Books, 1978)

*ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』(NTT出版)

Benedict Anderson, *Imagined Communities* (Verso, 1983)

*ミシェル・フーコー『監獄の誕生』(新潮社)

Michel Foucault, *Discipline and Punish* (Vintage Books, 1979) [translation of *Surveiller et Punir*, 1975] 日本語訳は読みづらいので、英語訳がお勧め(でも、むずかしい)。

*バーバラ・ドゥーデン『胎児へのまなざし』(阿吽社、1993) ドイツ語原書のタイトルは『公けの場としての女の身体』(1991)。ほかに『女の皮膚の下』(藤原書店)も。

*Raymond Carver, *Where I'm calling from* (Vintage Books, 1989) 村上春樹の日本語訳全集(中央公論新社)が出ているが、ぜひぜひ英語で読んでほしい。

*選外：監田清一を読んでみてください。

<日本語・日本文学科>

・揚妻祐樹 時枝誠記著『国語学原論』(岩波書店)

決して易しい本ではありません。好き嫌いがはっきり分かれる本でもあります。タイトルどおりこれは「原論」であって、表層のあふくのような言葉の現象を追いかけたものではありません。しかし、人が言葉を使うことの最も基本的なところに触れる魅力にあふれています。〈敬語〉〈言葉の美〉〈リズム〉…、こうした素材のすべてはそのつどそのつどの、人間の精神活動の所産、というよりも精神活動そのものであるという考えに貫かれています。言葉に興味のある方にはチャレンジし甲斐のある本です。



国語学原論 正・続篇
時枝誠記著 岩波書店 1941-1955
本館 B10.1 || To31



青年士官の戦史 (昭和戦争文学全集10)
集英社 1965
本館 918.6 || Sh96s || 10

・鈴木智子 『青年士官の戦史』—昭和戦争文学全集10—(集英社)

書庫の二層、918.6/Sh96sの番号の棚の前に立つと、この全集16冊が並んでいます。どの1冊を手にとって見ても、戦争を体験した人間の悲しみ、苦しみ伝わってきます。第10巻の中でも特に四竈信治の遺稿に私は心打たれました。この遺稿に限らず、どの文にも若者の言葉とは思われない深みがあります。世界が平和の危機にさらされている今、ぜひ学生の皆さんに読んでいただきたい本です。戦争がどのように大きな不幸を人間にもたらすのかを心に刻みつけるために。

※鈴木先生は2003年3月末で本学を退職されました。

<文化総合学科>

・野手 修

私の所属する文化総合学科では新入生のため基礎ゼミを行い、各専門領域への導入と大学で学ぶうえで必要な基礎知識等の指導をおこなっています。そこで私が学生に進めるのが木下是雄氏の『レポートの組み立て方』(ちくま学芸文庫)です。レポートとは何か、事実と意見の違いなど、自分の主張を文章であらわすために必要となる基礎的な概念が丁寧に説明されています。文章を書くのが苦手な人、書き方がよく分からないという人にすすめます。



レポートの組み立て方
(ちくま学芸文庫) 木下是雄著 1994
B16.5 || K46 丙館に所蔵あり

・真鶴俊喜 J.S.ミル著『自由論』(岩波文庫)

大学卒業時、法学を4年間勉強したが、何か断片的な感じのした法学的知識を、底の部分でつなぎ合わせる、そういった意味で「心に残る」本である。これは、ある種徹底した個人主義的自由主義に立つもので、多数者支配に対する警戒、少数者利益の保護としての人権の考え方など、とくに憲法を研究する身にとっては重要な基本姿勢が述べられているのだが、仮に憲法学者や法学者という立場になかったとしても、社会での人間の相互関係を考える場合に有効な示唆が得られた、そういった一冊だったと思う。

人間生活学部

<人間生活学科>

・木村晶子

大学時代は良い本と出会えるときです。ときにはこの出会いが自分の将来を決定するきっかけをもたらしてくれることもあります。貴重なこの4年間にゆっくり本と向き合い、“自分探し”を始めてみませんか。それぞれの生き方や個性を見直すのに役立つと思われるのは、「葉っぱのフレディ」でおなじみのレオ・バスカリアの著書、『愛するということ、愛されるということ』、『自分らしさを愛せますか』です。また、困難や苦しみに意味を与えてくれる本としては、ヴィクトール・E・フランクルの『それでも人生にイエスと言う』、『<生きる意味>を求めて』、阿南慈子さんの『神様への手紙』などがおすすめです。さらに、世界には、実にさまざまな感じ方や価値観が存在し、これまでの自分の世界はいかに小さいものであるかを教えてくれる本もあります。たとえば、『パパラギ』を読むと、自分とは全く異なる視点から見る社会があり、現在のわたしたちの生活からは生まれてこない発想があることに気付かされます。みなさん、多くの本と出会って、人生を豊かに楽しくしましょう。



それでも人生にイエスと言う
V.E.フランクル著；山田邦男；松田美佳訳
春秋社 1993 944 || F44 両館に所蔵あり。



パパラギ
ツイアビ著；岡崎雄男訳 立風書房 1981
304 || Tu3 両館に所蔵あり。

<食物栄養学科>

・松坂裕子

食に関する分野から2冊の本を紹介したいと思います。

1. 何を食べたらよいのかー氾濫する情報に振りまわされないために
2. 世界を制覇した植物たちー神が与えたスーパーファミリーソラナム

上記2冊の本は、くらしの中の化学と生物シリーズの中の本です。

近年、健康に対する私たちの関心は極めて高く、“何を食べたら健康を維持し、増進できるか”が大きなテーマのひとつとなっています。そのため、食品と健康の情報が、巷にあふれています。しかし、食品や健康に関する問題は、まだ科学的に証明されていないことや、専門家の間でも統一されていないことも多いようです。

1. の本では食品・健康情報をどのように解釈したらよいかについて、わかりやすく書かれています。

2. の本は中南米原産ナス科（タバコ・ジャガイモ・トマト・トウガラシ・ペチュニア）植物について、それぞれの起源・食文化を中心にエピソードと楽しいイラスト入りで書かれています。読了後は、ナス科植物がもっと身近になることと思います。一読を！



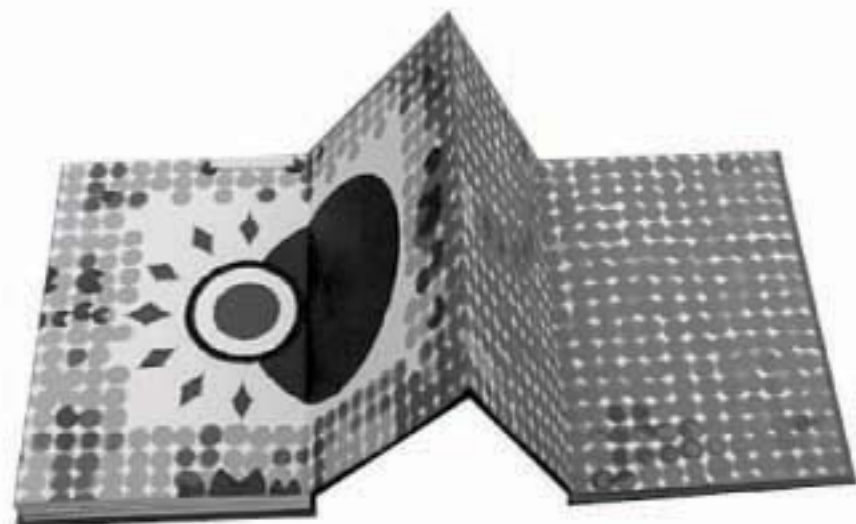
何を食べたらよいのか
日本農芸科学会編 学会出版センター 1999
花川館 498.5 || N71

<保育学科>

・ 杉浦篤子

こだわってみると面白い

「好きな絵本は？」と聞かれれば、あっという間に10指に余る題名が思い浮かぶ。私が絵本を集めるきっかけになったのは、学生時代ある原画展で出会ったイタリアの絵本「Peppino」全く文は読めなかった。大道芸人の父子、その男の子が道路にチョークで絵を描く。それが突然の雨で流されてしまう。雨に流される絵がなんとも美しかった。絵が全てを語っていた。文章は要らない、とその時感じた。私にとってそれは絵本原点となった。それから少しずつ絵本を集め出し今では何冊あることか。しかしすべての絵本に出会いの記憶がある。私の宝物は、フランス、ニース市近郊にあるマールグ美術館で見つけた「白雪姫」、白雪姫はどのくらいあるか分からないほど出版されているだろうが、デザイン性の高さは屈指のものと言える。現代アート、パズル、心理テストどれも当てはまる。絵本もこだわってみると面白さは向こうからやって来る時がある。絵本は人気作家以外は出版数が少ない、これはというものに出会ったら、手に入れておくことをお勧めする。今でも探し続けている絵本がある、全く未練がましい限りと我ながら思うのだが。



Warja Lavater, Blanche-Neige
une imagerie d'après le conte,
Adrien Maeght Éditeur, c1974

図書館がより身近なものになりますよ！！

図書館オリエンテーションのご案内

新入生のみなさん、図書館はもう利用してみましたか？なんといっても今までの環境と違うのは、その資料の数の多さだと思います。本館閲覧室に来た方はわかると思いますが、英文・国文・社会科学系を中心に見えない部分まで（地下にも）資料はびっしりと並んでいます。一方花川館は、2Fから3Fまで自然科学・保育系等の専門書を中心とした資料が所狭しとあります。

図書館では常日頃からたくさんある貴重な資料を有効に使ってもらいたいと切に願っています。図書館の利用というと、パソコンで検索をして資料を探す、書架で資料を手にとってみる、ということを想像すると思いますが、それだけではありません。他大学の図書館を利用することや、他の図書館から本を借りるなどといった、皆さん

が“へー”と思うようなこともお手伝いしています。

カリキュラムの関係で、オリエンテーションは5月頃になりそうですが、ぜひ参加して下さいね。もちろんオリエンテーションとは関係なく、“わからない”と思うことは遠慮せず係に聞いて下さい。皆さんの学生生活が、よりよいものになりますようにと思っています。



藤女子大学 図書館だより 第65号 2003.04

発行者 札幌市北区北16条西2丁目 藤女子大学図書館
TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770
<http://library.fujjoshi.ac.jp/index.html>